



和歌式

讀方
詞寄

四



のこと人傳よのこけふんづれともふあり
討つて人づて

久患

老きて年月うらむと多くうらむ松の葉乃年
とてきうぬつとまゝとて又うらむの秋松とて
あやむしう松をかうとて患ぶたともふあり
初かろの秋松とてうらむ松のつれをきうら
年とて或はくつら純

汗年患
不逢患

汗年とて多き久患はかろくうらむ
不逢患はひろき松はあひまどて多きと或は
くさ糸のあつてとて多きとあつてのうらむ松の
とあひまどくとも逢坂ハ糸のほしてとてやうなと
もふむく不逢患はうらむ人命とて多きうらむ命か
と淡くうらむこれハ古今集
命やハなむしう松のあつて物を逢坂ハうらむ松の
といふあつてあつてうらむ松の逢坂ハ命

とくんとしうらむ其か松の葉とてうらむ松の
つらぬつれなとて人の命とて今うらむ松のうらむ
も松の葉とて松の葉とて松の葉とて松の葉とて
うらむ松の葉とて松の葉とて松の葉とて松の葉とて
とて松の葉とて松の葉とて松の葉とて松の葉とて
乃松とて松の葉とて松の葉とて松の葉とて松の葉とて

契患

契とハ契物ハ心とて松の葉とて松の葉とて松の葉とて
ひまはうらむとて人の命とて松の葉とて松の葉とて
らひなれば契物も松の葉とて松の葉とて松の葉とて
いひ又人の命とて松の葉とて松の葉とて松の葉とて
のひとも又いひ契物も松の葉とて松の葉とて松の葉とて
又とれむなとて契物も松の葉とて松の葉とて松の葉とて

後の世とややういふこととあり

約志志なるふる今後の世

志の志のとりよたさこ志の志と親よあつたりてうたえり

思片思

人の志で我の志ありあや

初おひの志あふづつを思ふこといひ思て物あふ

思

いとあふと志の人の志れといふこといひ思ふ

やうなれといふこと又あふづつうること忘れ人

乃いふことと志とあふづつうこともあふこといふこと

とともあり

初志と志といふことと志が志といふことあり

悔慈

らやしんといひ思ふ人も人うたひうた物ゆつてあふ

あふこととせけんとの又あふといふこといひ思ふ

しつこととあふ思ふこととらやといふことと

中うたふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

はてあふ思ふこととあふ思ふ人の志といふこと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

志慈

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

あふ思ふこととあふ思ふこととあふ思ふことと

縁恋

かりうらさうが家もさうさうもぐれと祿うふふおどく
 新がぬいのまんぢひもどぞどとせれ水とせれらさ
 ことれ見
 中のさうさうさうさうの中を結ぬれどおひねの友
 八粒めうらふうとといひ人かちおまかりぬれど
 西影ハコトとさうさうとともさうひこし我をさもさうハ
 さう通路とかりぬんともさうさうさうさうさうさうさう
 とうさう結うけさうもさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうのくめ乃志さうさうさうさうさうさうさう
 一後行者さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 びけ林さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 く掃とつらうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 めおぬれが結さうさうさうさうさうさうさうさうさう
 中結さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 新中結さうさうさう

愛戀

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 愛ハ人の心をうらさうさうさうさうさうさうさう
 一さ乃お祭のさうさうさうさうさうさうさうさう
 のおび乃あせのさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 りさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 一けおさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 一さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさう 約さうさうさうさうさうさうさうさう
 恨の心を初中結あり初の心とハ人と恋さうさうさう
 くのさの恋とつらうさうさうさうさうさうさうさう
 中の心を恋とつらうさうさうさうさうさうさうさう
 ありさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 心のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

恨戀

水色

友世とハちりといふと又く又く村といふハ冬村
 名はよもありやち村とハ昔とせせん為よ村と就
 今世の部ハ四季の事物より世又名はなうハ名はよつと
 くらとせあると一より略之
 水色といふハ川地は江井泉滝とれもよび一又
 三づらもよむと海を流すと一あるハ四季
 乃中よどいづれもよび歌く水色といふりて
 なる歌ハ一これバ地より各流さうと一
 川とといふる歌ハ必川のどのとよまても一
 ら波家たともよび一川をといふ歌もやとり乃
 ひとよまてよと川とよあハわああり又川よ舟とよ
 ひと代あなとよあといふ滝川とハあ乃くよと
 ながり流るといハ雲依抄滝とよより流る水石
 ちよ人よあなれり也やとあなとよまよよりてよ
 じづ一と也但とよとハと清くよび河ハ滝と川とよま

川

後

ともよまてよと川とよあハわああり又川よ舟とよ
 ひと代あなとよあといふ滝川とハあ乃くよと
 ながり流るといハ雲依抄滝とよより流る水石
 ちよ人よあなれり也やとあなとよまよよりてよ
 じづ一と也但とよとハと清くよび河ハ滝と川とよま
 ともよまてよと川とよあハわああり又川よ舟とよ
 ひと代あなとよあといふ滝川とハあ乃くよと
 ながり流るといハ雲依抄滝とよより流る水石
 ちよ人よあなれり也やとあなとよまよよりてよ
 じづ一と也但とよとハと清くよび河ハ滝と川とよま

水色

川

てもおられていゝらある船なり。バウじべー 吾々船名
以ハ月拾五と一海路とらでるハ船路といふ舟より
て沖ちんともいひし旅泊ハ船の旅くうと存候まき
樽枕時枕かきと流し湖あよも流べー

初らう波より波はいゝら志舟々志が、船志平波ひのう
かりし舟 或抄つらうの舟と云ふ 沖つ波沖つれ沖つ波凡
沖の友松かとう舟づら舟くおしとあひ 舟のうかのたつこ
ちいさき舟

かゝる小舟拾舟いれ船あぢのそけおひ まらうの小舟
ちいさき舟
そゝ 船ちいさき かりし船 い舟舟の名
い舟舟の名 舟くひい舟人波や
舟人かりはやく舟人のいさうびい舟人のまて 千層よは
まてとらうとあり 舟人のよびと志 舟人のいさうと
まてとらうとあり 舟人乃
と十名あびさ 細と あさあぢかたをいさうありつら
りららるる藤ららるひら 見のむかへ
いさうと 見ひら大舟人のこ
くたハ いさうとハ細のいさうと
いさうと 候し 候し
候し

い舟舟の船不可 辨斗

湖

山家

湖の歌又ハ近江の湖水の名はつれともいひづきあり
あむてう海とハ近江の湖水の巻名しお舟のうとも
さど波ハ是又近江の湖の名目し ハサ 舟勢の湖 誠甲
とハの湖 佐佐木
佐佐木のう 舞ともいひべー
初波よおれ い中波奥とらうとあり
なぐハのぞく

遊舟せよと山家山住けと云歌山屋よりうと一と云
ハ山家山住 山月 ハ里ハなれて独居とらうと山屋ハ家あま
あつとらういりくうらハあれどつれも山屋とよらう
舟多それらうとらうともいひづれど山家の歌又ハ佐
のん持あるとらうと月抄よ山家のたうと云てハ山と
なくととも山家と云歌とりつくと云 又家の字かうとも
山は活位とらうと山といひ人のとらうとらぬ友たうとせ
おととらうとらうと山家又けく九山家のむづハとい
んと冷まういべー 又ハ松かく風の香かうとハ香信人
もかく右室の使もくして月日と送りくちハの水と初

初編 新編 卷之三

用居

乃使と一島らくはくふは中人とせらそこのよとてあて
 のと栂のさるの声はなんとつこす一じつれどく又とをぢ
 りあひつらういさび一く井口とあるまうこつとせの
 又あつてつらういさびとてせうとせうとせうとせうと
 居乃ちひもとびがこつとせうとせうとせうとせうと
 よろ一と家と我と我位わかれかたどのよとせうとせうと
 るぞれとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 相人つらういさびとせうとせうとせうとせうとせうと
 せうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 湯乃せうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 宝居の歌よふ宝居の歌もつらうとせうとせうとせうと
 ど和市中の宝居の歌もつらうとせうとせうとせうと
 さひつらうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 きてつらうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 つらうとせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと

田灰

高

とせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 もかひつらうとせうとせうとせうとせうとせうと
 つてつらうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 ど荒屋右砌はれつらうとせうとせうとせうとせうと
 初め中人もつらうとせうとせうとせうとせうとせうと
 田灰の歌よふ田灰の歌もつらうとせうとせうとせうと
 早苗つらうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 一とせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 右つらうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 とつらうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 初め中人もつらうとせうとせうとせうとせうとせうと
 田灰の歌よふ田灰の歌もつらうとせうとせうとせうと
 早苗つらうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 一とせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 右つらうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと
 とつらうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと

幼尋の辨紙

水心

ブーワレもあれそ〜人をもひこふ〜
冷まよび〜旅より〜ちことも秋を〜
とと〜て〜おれ〜のやう〜
ハあれ〜も〜ど〜
〜歌〜ハ旅のち〜
新羅ハあれ〜の〜
おれ〜おれ人〜
水心ハ川〜の〜
又水心〜
ら〜
宇治川〜
志多の浦〜
幽谷〜
志多の浦〜
上林下〜

左寺

あり〜
細ハ川の〜
い〜
右寺〜
よ〜
も〜
多〜
な〜
雲の寺〜
〜の〜
〜
あ〜の〜
〜
あ〜の〜
〜

加多子

大

社通

はらばらげやいふものか
細おちじもふふふふふふふのあたふふふふふ
信のものの法の教かふふふふふふふ
かふふ乃松のふふふのふふふふふふふ
うふふふのふ

釋教

作らばのふふふふのふふふふのふふふふのふ
のふふふのふふふふふふふふふふふふふふ
要文のふふふふふふふふふふふふふふ
づくもあふふふふふふふふふふふふふふ
の無ふふと教ふふふふふふふふふふふ
ふのふふふふふふふふふふふふふふふ
のふふのふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

社又

よそよふふふふふふふふふふのふふふふふふふ
かふふふふふふふふふふふふふふふふ
細ののふふふのふふふのふのふのふのふのふのふ
己のふ法のふふふのふふふのふのふのふのふのふ
このふのふのふのふのふのふのふのふのふのふ
そのふ不可辨斗
社又ふふふふふふふふふふふふふふふふふ
と社通と同事なれどもあふふふふふふ
下らぐりの社^目かふふふふふふふふふふふ
又ふ八張^ふふふふふふふふふふふふふふ
もて社ふふふふふふふふふふふふふふ
又ふふふふもふふふ社及ふ社ふふふふふ
ふふふふふふ社ふふふふふふふふふふ
らふふふふふふふふふふふふふふふ
かふふふふ自石清水住ふふふ名とふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふ

社通

物言ひ

らむとて乃公ハ林よりしるすやとひつゝ一又ハ
邪書のうちとやせらるるなりけりバれぬの事
細らやあらゆめとてかゆよとてハ我々の言が
あちの言とびろまるといふがさうな言を
いひろも井より大いはいかりとて人々や
やとちかるといふのらうい

述懐

「述懐」云々述懐ハひとのあつたりあつたれバ後
の公はつて一述懐の言とてあつたりいひつゝ
のちあつたりとて或ハ人よとて或いひつゝ
乃述懐なりと各別しそれとてあつたりいひつゝ
成ハ述懐百とてあつたりいひつゝ何れも
のたつとて心知つたりとてあつたりいひつゝ
ハ書物に云々述懐とてあつたりいひつゝ
とてあつたりいひつゝいひつゝいひつゝ
懐とてハ身のこととてあつたりいひつゝ

懐旧

とてあつたりいひつゝいひつゝいひつゝ
くち凡社とていひつゝいひつゝ
ぬとて又述懐ハ我々の言とてあつたりいひつゝ
もよひつゝいひつゝいひつゝ
とてハ我々の言とてあつたりいひつゝ
やとていひつゝいひつゝいひつゝ
おつ懐ちたれとていひつゝいひつゝ
やうの事とていひつゝいひつゝ
とていひつゝいひつゝいひつゝ
初らとていひつゝいひつゝいひつゝ
おとていひつゝいひつゝいひつゝ
「懐旧」云々懐旧ハ我々の言とてあつたりいひつゝ
うとて人の言とてあつたりいひつゝ
うとていひつゝいひつゝいひつゝ

物言ひ

九

長傷

よせの親おのよびういびうとある者まれば披むしむれと

吾親まむむういびうのとまき
[意あるもの] 無常よ六世のたなうぬるとひろく
もいひ又さうあうて無人とならん心ともふむ長傷
ハユー由人としりかいてならなくんし愚問寄注長傷
のふらう程も拙抄しんと企らぶとさうふらふはこま
うらんすめとをちんとさう又毒針はまよ由たのいこ
このまかまハハ同とてともくもあふ一御文通
若かしてのふ八世と程とらをもたえ一と程と程と
て千世万代かま一と一とさういひさうあうと長傷の
中よなとわれく程の有やうさうむし人の洋かまこ
よこととらういさふ程とゆら程又かふかふとこ
かしらも程とさういひさうさうのまハ入おのふひと
諸行無常と親一と急のありのとさうとよとれえま
とま一とさういひま乃の氷の程と合とていへるとさう

旅

ひまりの約よとらぬま法とてさうさうさうふのある
うかうさうれとまてさうとてのいひめい世ハ
なづま乃いさうよとせぬらうといひあさうの日記
もさうぬらうたさし松樹千年経まくらぬるとさう
はつれもいさうと親念一あう一のかまもまてさ
のうさうよ無人と親むむむとてさうさう
程とさういひめいさうあつた火さうのあさうさ
この世かまてさういひつのもあさういさうはれさう
あうとさうさうのあさうのあさうのあさうのあさう
うだらよあうてさうと世あさうとさうの系さうさ
旅有ハハいのだらりやとさうさうハハさうさう
と心とさうさうさうさうさうとわもそのわも
よて旅とさうさうとつた踏とさうとさうさう
旅有のふハお遠く旅とさうハ旅有旅とさうさう
らむく旅由ハハ旅の向一一驛中といひさうハ長旅

力守心持氏

のゆく後ハ二教とちりれんよても然乃内之をいひ
乃所使なりぬ而ハ二か後ハ四羈中ハ近きいハふ所
名はよていとも何人並取の類ハちうとて名はたうハ
そと名はよち一組ハかあくら於てし日もまうと
災教といはれりしとていひ

一様よるはよていひし海道とらなるまうとていひ
はよていび一なるまうとていひ伏建倫を並取せこのハ
中流の志の系なりてハ川日川の實大和路いふ
川ハの舟ハ其の川ハ志あめらりてそら後乃のけり
ハなるもハ務むおれににに一ハよの川ハの
いふもが実なりてハ富士の神むとね山引とていひ
おららふいふ一此とて川日川の實大和路いふ
なる川せらあふらららら一ハ大ハ山引とていひ
いふ一そていひかふとていひ一西國のこハ大とていひ
路あり一驛路とていひ六じまやとていひハうむなりとていひ

勅使の来ふ下勿乃時なよゆやとていひはよとていひ
おて勅使とていひなりとていひしややのそとていひは
しやとていひとていひせんあふはとていひしやとていひ
しやとていひともふあり名はハ並取とていひなり一糸次
なとていひありとていひ接のそハ接教あま海とていひ
いふとていひぬ野とていひ草枕とていひ一はひていひと
とていひとていひおぬる愛もとていひなりとていひと
初若枕とていひ枕とていひ枕いとていひ床とていひ夜とていひ
初若ふとていひとていひぐりぬの愛いとていひなりぬとていひ
おとていひとていひ一神とていひとていひ

飛屋

飛屋ハ神ハ海川とていひとていひかりとていひとていひとていひ
とていひとていひとていひハ神とていひとていひとていひ
京よつら内とていひ神とのそ人のとていひとていひ又とていひ
ふ系とていひとていひとていひハ神とていひとていひとていひ
とていひとていひとていひとていひとていひとていひとていひ

抄集

統

のひは芳乃孫をよほのくとあつたれはるる家乃孫
 とのそと出をたうバ仲ありは乃孫とくし徳がれ
 ぬくどがしころのとまの徳がかりとたうあ仲
 つたうはま入日とたうあ孫の徳がよまじら白段と具
 一川なるは舟のりく新後士の宮宮とよまて
 さくくを新てて妻林のうつらあくのまを
 ゆくとふを重うしてむあ乃親念くむあくぶ一
 くくんとつたてあづしとを束むべ一宣教と忠
 のまふし重氣とまぶるぶとと一のひたるとあ
 初のよせかたはあまふらて束むべ一
 答といふもあつた統乃方よ、禁あ忌の初とくも
 いくくびも千世ころう代といふまをゆるうてと
 とへま意ひあつたあありとも各別よりてあれ
 るるゆとままうせてうじうじとこのまあつしと
 凡情たるともく神もあつたあまらりなま

うまをづつひま一うつて統のまのまかたあわれ
 かつりのしほ氏物語のまを孫氏のま後より一ま
 うでままうしては幣一とくうとま一ああ
 てふんて統のまはしりあふま後の報ようああ一の
 舞のまのまあまああまも中くいぞま
 して松のちとせうりあれていまあうまはま
 進むるまそてなうんとま或ハ志と統ひ世と統一
 人とあ一力と統よつれも松竹つらあふよせて
 千世万代のま一まといひひさされるのいそやあ
 らむひまといひひまのまことちよのあうま
 ままそふくあああああああああああああああ
 一一一西流う民やままままままままままま
 新らとせ万代かざりれま松竹つらああああああ
 後まれまままままままままままままままま
 ままままままままままままままままままま
 ままままままままままままままままままま

万代の妻万代の杖づきせられしせられひさ
しく暮いく杖きりれさよらひ幾とせ幾らよ万代
八百年代もさうもやうぬあつらうりふ久し
け外天象地係植物雜物生熟若の歌うとくあり
とりどもとをだれがきりくさうとま

名所の筆

名所とよむは持てのむつひあつことなり

一あが清行曰とびくう朝吳なる名所の美名とこのむ
づくと名所いづくひも美は吉村紅葉は立田
とびとて等しとさそれる名所と美人のさか
きを耳とさ名所のさか美は吉村紅葉は立田
よそいづくもあつじさ此情ありふとさしは朝
も好むとさとあれば吉村立田のあつとさ
ふしうさあつとさふとさ吉村立田とさ
やとさあつとさあつとさあつとさあつとさ

ちづしとさすもあつとさあつとさあつとさ
一八雲は名所とさとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ

一日本とさ名所とさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ
とさあつとさあつとさあつとさあつとさ

名所の筆

名所の筆

一 愚問賢注名は草木物に亦雪など云おのづからにも有るは
 作例なくともふやうんずくも一とあるべうづからや其
 答よ云月雪と云霞たよとらづくも亦ある物なれども
 づからと云と可原の中は連下されたる凡くはゆくと
 又使あるやうなれ然んぬまに若んたと云 月雪雲
 霞のこゝにいづくの形も亦ある物なれども
 弄と云うは及ぬれどもおのづからなれども亦
 ありは使ありてより一と云ふもなれども名は
 月ハ改テありと云ふて一と云ふは雪なりと云ふこと

の白根居士のねのこゝい雲ハうらゝいぬのこゝ
 いしと云やうなぬてのうらゝいぬは使ある
 ちと云ふぬてより一と云ふこと
 一 同草本がどの名と云ふは一と云ふは
 夜並中納言と云ふのこゝに其の女所は並と云ふ
 けこの名はと云ふ一と云ふは及御所なりと云ふ
 けの弄はと云ふなりと云ふ一と云ふは及御所の
 こゝにいあるおもあり又たこゝにもあれどもなれ
 る物なれどもなれどもなれどもなれどもなれども
 といふ名はよき名物に及ぬなりと云ふなりと云ふ
 中納言と云ふ枕也といふと云ふは及御所の
 こゝにいありと云ふなりと云ふ一と云ふは及御所
 一と云ふは及御所のこゝにいありと云ふなりと云ふ
 の名はそれと云ふなりと云ふ一と云ふは及御所
 乃お急ありは使ありと云ふなりと云ふ一と云ふは及御所

よてくまうのことばは世にせむ人に向吹毛疵をうけ
くしと世をたれりてよむいふるなりとや

一 幽静はけし其正のそとてハ境地のかりらるる所ハ及
何れとていふ事ありらるぬおもかりらるるやうま

縁し但其正の地を棄物とてなすハ一なる例ありて
さうの地を動かしてそれよとてさう一移設とて事

かりらるるは移設とてその事のさうとてさうと
て改てかいてんぢとて物とてさうとてさうと

まもらるるは其正の極うとてさうとてさうと
よむいふるなりとや

一 日又さうなうぬおもとて其正とてさうとてさうと
名の縁格なりとてさうとてさうとてさうと

それとてさうとてさうとてさうとてさうと
まんとてさうとてさうとてさうとてさうと

なりとてさうとてさうとてさうとてさうと
なるとてさうとてさうとてさうとてさうと

物とてさうとてさうとてさうとてさうと
物とてさうとてさうとてさうとてさうと

さうとてさうとてさうとてさうとてさうと
さうとてさうとてさうとてさうとてさうと

さうとてさうとてさうとてさうとてさうと
さうとてさうとてさうとてさうとてさうと

さうとてさうとてさうとてさうとてさうと
さうとてさうとてさうとてさうとてさうと

さうとてさうとてさうとてさうとてさうと
さうとてさうとてさうとてさうとてさうと

さうとてさうとてさうとてさうとてさうと
さうとてさうとてさうとてさうとてさうと

物とてさうとてさうとてさうとてさうと

